

2026年総選挙 京都小選挙区立候補者への核兵器禁止条約に関する公開質問書回答状況

1区	氏名	政党	回答
	勝目 康	自 前	
	平竹 耕三	中 新	●
	佐々木隆吏	維 新	
	桂 隆俊	国 新	
	鎌野 敏徳	共 新	●
	谷口 青人	参 新	
	堀場 幸子*	み 元	
	浜田 聡	諸 新	●

3区	氏名	政党	回答
	繁本 護	自 元	
	泉 健太	中 前	●
	木村 元紀	維 新	
	西山 頌秀	共 新	●
樋口 智*	参 新		

4区	氏名	政党	回答
	北神 圭朗	自 前	
吉田 幸一	共 新	●	

2区	氏名	政党	回答
	藤田 洋司	自 新	
	河野有里子	中 新	●
	前原 誠司	維 前	
	堀川 朗子	共 前	●
	辻村 千尋	れ 新	
酒井 勇輔*	み 新		

5区	氏名	政党	回答
	本田 太郎	自 前	
山内 健	共 新	●	

6区	氏名	政党	回答
	園崎 弘道	自 新	
	山井 和則	中 前	●
	上條 亮一	共 新	●
大奈*	参 新		

*は党に宛先をたずねたが回答を得られなかった。

1、一か月前に安全保障を担当する総理大臣官邸の幹部が「日本は核保有すべきだ」と発言しましたが、あなたのお考えは、

イ、核保有すべき ロ、保有すべきでない ハ、どちらともいえない

【平竹 耕三】 □ オフレコでの個人的な意見とはいえ、安保政策の提言を行う者がそのような考えを持っていること自体が問題。

【鎌野 敏徳】 □

【浜田 聡】 イ 核兵器の非人道性や、被爆国として核廃絶を訴える立場には強く共感します。核兵器は決して使われるべきものではありません。しかし、核を保有する国が現実に存在し、国際社会が核抑止によって成り立っている以上、日本だけが理念先行で安全保障の選択肢を自ら狭めることは、国民の生命を危険にさらす大きなリスクがあります。核保有は使用を目的とするものではなく、使用を防ぐための抑止として、現実を直視した議論が必要だと考えます。

【河野有里子】 □ 核保有を語る人が安保政策の提言を行う政権は問題。

【堀川 朗子】 □ 唯一の戦争被爆国の政府として決して認められない発言である。

【泉 健太】 □

【西山 頌秀】 □ 核保有もアメリカとの各共有も絶対に認められない。

【吉田 幸一】 □ 核兵器の使用を前提とするアメリカの「核抑止力」依存をやめ、唯一の戦争被爆国の政府として核兵器禁止条約への参加を決断することを求めます。

【山内 健】 □

【山井 和則】 □

【上條 亮一】 □ 核保有も核共有も認められない。

2、「持たず、つくらず、持ち込ませず」の「非核三原則」の見直しが、高市総理の持論ですが、あなたの「非核三原則」に対するお考えは、

イ、見直すべき □、今のままでよい ハ、わからない

【平竹 耕三】 □ 日本の国是とも言うべきものであり、厳守すべき。

【鎌野 敏徳】 □ 非核三原則は法制化を。

【浜田 聡】 イ 非核三原則は、核兵器の惨禍を繰り返さないという日本の強い意思を示してきました。一方で、国際環境は制定当時から大きく変化しています。理念を守ることと、国民の安全を守るとは必ずしも常に一致するとは限りません。見直しとは核武装を即断することではなく、現実の抑止環境に照らして、理念が実効性を持っているかを不断に検証する姿勢だと考えます。

【河野有里子】 □ 非核三原則を見直す必要性がない。

【堀川 朗子】 □ アメリカによる日本への核兵器持ち込みを認める密約を廃棄し、「非核三原則」を徹底することで、真に非核の日本を実現すべき。

【泉 健太】 □

【西山 頌秀】 □ 非核三原則を守り抜き、法制化をする。

【吉田 幸一】 □

【山内 健】 □

【山井 和則】 □

【上條 亮一】 □ 非核三原則の厳守。

3、2021年に発効した核兵器禁止条約に対する日本政府の対応をお聞きします。

イ、核兵器禁止条約に参加すべき □、参加しなくていい ハ、どちらともいえない

【平竹 耕三】 イ 日本被団協をはじめとする皆様の長年にわたる運動の結実ともいえるものであり、批准に向けた動きを進めるべき。

【鎌野 敏徳】 イ 自らが参加したうえで他国にも働きかけるべき。

【浜田 聡】 □ 核兵器禁止条約が、核兵器の非人道性を国際社会に訴える点は評価できます。しかし、核保有国が参加していない条約では、現実の核削減や使用防止に直接結びついていません。日本が条約に参加しても、核を持つ国の行動を変えられない一方で、日本の抑止力や同盟の信頼性を弱めるおそれがあります。理想を否定せず、実効性を重視すべきです。

【河野有里子】 イ 日本は核不使用・核廃絶で先頭に立たなければいけない国である。

【堀川 朗子】 イ 被爆者が、禁止条約の国際会議で「なぜ日本の政府は参加しないのか」と言われたことが恥であり、悔しいという思いを話されました。条約に参加し、積極的な役割を果たすべき。

【泉 健太】 イ

【西山 頌秀】 イ 唯一の戦争被爆国の政府として、核兵器禁止条約への参加を決断することを求める。

【吉田 幸一】 イ

【山内 健】 イ

【山井 和則】 イ

【上條 亮一】 イ 唯一の戦争被爆国の政府として、核兵器禁止条約に参加を求める。

4、核兵器禁止条約の締約国会議がすでに3回開かれましたが日本は参加していません。今年秋、第一回再検討会議が開かれます。日本政府のとるべき態度は、
イ、オブザーバー参加すべき ロ、参加すべきでない ハ、どちらともいえない

【平竹 耕三】 イ 核の脅威が増す現状を憂慮しており、少なくともオブザーバーとして参加すべき。

【鎌野 敏徳】 イ

【浜田 聡】 ロ オブザーバー参加であっても、日本が核抑止を否定する立場に近いと受け取られかねません。核廃絶を訴える立場の方々の問題意識は理解しますが、日本政府には、理想を示す役割だけでなく、現実の安全を確保する責任があります。国際社会へのメッセージは慎重であるべきです。

【河野有里子】 イ 核の傘の下にあるという現実はあるつつも、少なくともオブザーバー参加すべき。

【堀川 朗子】 イ

【泉 健太】 イ

【西山 頌秀】 イ 被爆国として条約に関わり、核廃絶へ具体的役割を果たすためにも、少なくともオブザーバー参加すべき。

【吉田 幸一】 イ

【山内 健】 イ

【山井 和則】 イ

【上條 亮一】 イ 少なくともオブザーバー参加して、被爆国として条約に関わり、核廃絶へ役割を果たすべき。

5、日本政府が、アメリカの「核抑止力」を安全保障の柱にしていることに対して、
イ、転換すべき ロ、今のままでいい ハ、どちらともいえない

【平竹 耕三】 ハ 日米安保体制は、我が国自らの防衛体制とあいまって安全保障の基軸であり、昨今の東アジアにおける状況を踏まえれば、抑止力と対処能力を総合的に備えることは一定の説得力があることは否定できない。しかし、日本は唯一の戦争被爆国として、核兵器の非人道性を訴え、核廃絶に向けた働きかけをおこなっていくべきであり、NPTをはじめ核軍縮・軍備管理体制の維持・強化を追求すべき。

【鎌野 敏徳】 イ

【浜田 聡】 ロ 核抑止は倫理的に葛藤を伴う仕組みであることは否定できません。しかし、核抑止が機能してきたからこそ、大国間の全面戦争が回避されてきたという現実もあります。抑止力を否定するだけでは、核を保有する国の行動を抑えることはできません。理想と現実の間で、国民の安全を守る責任を優先すべきだと考えます。

【河野有里子】 ハ 日米同盟は我が国の安全保障の基軸であるが、核抑止への過度な依存はサイバー攻撃やテロ等の多様な脅威への対応力を損ないかねない。また、核抑止の考え方そのものが軍拡競争と拡散を促進するリスクを伴うものであり、日本は核軍縮・軍備管理体制の維持・強化を追求すべき。

【堀川 朗子】 イ 抑止力の発想は、何かに起きた時に核兵器を使用することが前提。絶対に認められない。

【泉 健太】 ハ

【西山 頌秀】 イ 「核抑止力」論は核兵器の使用を前提に相手国を脅迫することであり、果てしない大軍拡競争を招く。

【吉田 幸一】 イ

【山内 健】 イ

【山井 和則】 ハ

【上條 亮一】 イ 「核抑止力」論とは核兵器使用を前提に相手国を脅迫することであり、果てしない大軍拡競争を招く。憲法9条生かし、対話と包摂で平和をつくる外交に力尽くすべき。

6、政府の原発政策が、「原発依存度低減」から「最大限活用」に転換しましたが、
イ、最大限活用すべき □、原発依存度低減 ハ、原発から速やかに撤退

【平竹 耕三】 □ 再生可能エネルギーを最大限活用し、将来的には原発に依存しない社会をめざす。

【鎌野 敏徳】 ハ

【浜田 聡】 イ 原発事故の教訓や不安の声は重く受け止める必要があります。一方で、安定した電力供給と国民負担の抑制は現実の課題です。原発を感情や理念で否定するのではなく、安全性を最優先に確保した上で、現実的な選択肢として活用することが重要だと考えます。

【河野有里子】 □ 再生可能エネルギーを最大限活用し、将来的には原発に依存しない社会をめざす。

【堀川 朗子】 ハ 原発依存こそ現実的でないことが、この間の再稼働を巡って証明されている。

【泉 健太】 □

【西山 頌秀】 ハ 再稼働・新增設に反対し、原発ゼロの日本をめざす。エネルギー政策を転換する。

【吉田 幸一】 ハ

【山内 健】 ハ

【山井 和則】 □

【上條 亮一】 ハ 原発の再稼働・新增設に反対し、原発ゼロの日本をめざす。再生可能エネルギーの活用などエネルギー政策を転換する。

2026年2月2日

核兵器廃絶ネットワーク京都

参加団体：核戦争防止・核兵器廃絶を訴える京都医師の会

京都原水爆被災者懇談会

京都「被爆二世・三世の会」

原水爆禁止京都協議会

京都宗教者平和協議会

日本科学者会議京都支部

非核の政府を求める京都の会

アボリション 2000 京都

平和友の会

原発ゼロをめざす左京の会

(問い合わせ先) 核戦争防止・核兵器廃絶を訴える京都医師の会

〒604-8162 京都市中京区七観音町 637 インターワンプレイス烏丸 6階

京都府保険医協会気付 (担当：浜松 章)

TEL 075-212-8877 FAX: 075-212-0707

(公開 HP) URL http://hikaku-kyoto.la.coocan.jp/new_network.html